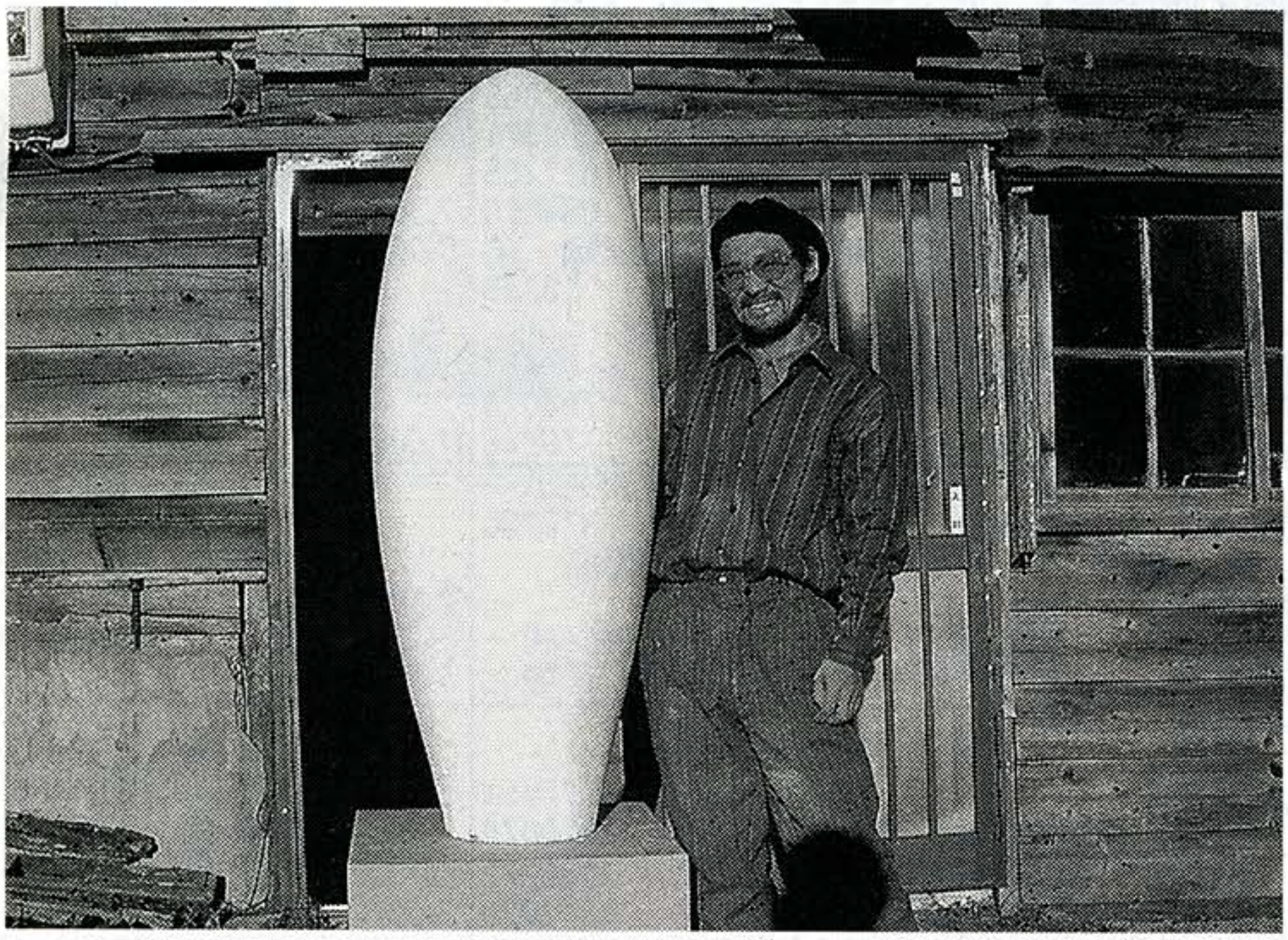
「これからは未来を感じさせる作品も考えていきたい」と話す嶋崎さん



嶋崎　誠さん（47）　鶴居村下雪裡

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□2□

廃材利用の作品づくりも

鋳造ガラスの分野で今までの常識を打ち破り、最大級のガラス彫刻を作り上げてきた嶋崎さん。

ガラス彫刻

東京都庁舎シティホールにある噴水「水の神殿」製作で有名な環境美術家・関根伸夫氏のアシスタントしていたこともある。

嶋崎さんは「作品は全体に対して精神的な平安などの調和をもたらすべき」という〝客観芸術〟をメーンテーマに、環境というテーマも大事に考えて、蛍光管などの廃材を利用した作品づくりにも取り組んでいる。

常識打ち破る作品に

国際グラス展にも出品

現在では、ガラスの材質にも着目して〝未来〟をテーマに、新しいスタイルの作品にも挑戦している。

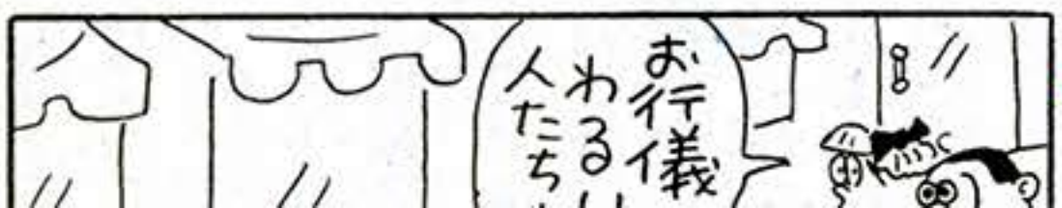
埼玉県出身で、早稲田大学美術史科から横浜のBゼミスクール（現代美術の自主ゼミ）に移って現代美術を学んできた。

現代美術から独学で今日に

1986年、網走管内津別町に移ってから、図書館に通い詰めて独学で勉強。古代メソポタミアで使われたガラス技法のパート・ド・ヴェール（粉々に砕いたガラスを耐火石こうの型に詰めて窯の中で焼く方法で、極めて表現豊かな作品をつくることができる）によるガラス彫刻を製作し始めた。

93年、京都で開催された第1回ガラス彫刻コンペティションでグランプリを受賞。96年、ヴェニスで開催されたインターナショナル・ニューグラス展に出品した。

98年に鶴居村に移り住んだ理由について、嶋崎さんは「芸術家として脱皮したかった」と話す。以前、友人とスキーに行く途中に鶴居村に寄り、雄大な自然に魅了され、移り住むことを考えたという。登山が趣味で、年に数回は家族と阿寒岳に登っている。

アッパレ君

木崎征夫